

「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.11号
11月7日

11月1日、公開授業おつかれさまでした。みなさんのご協力により滞りなく終われたように思います。ありがとうございました。参加者アンケートが続々と届いています。単元・授業の狙いやこれまでの取り組みに関して、しっかりと伝わっているように思います。これから、授業の様子や討議の内容、アンケートの意見をまとめていきますが、取り急ぎいくつか紹介していきたいと思います。

☆授業について

○本日は授業を拝見させていただきありがとうございました。3年生の授業を拝見しましたが、子どもたちも先生の授業力も非常に高く、学ばせていただくことが多々ありました。考えぬかれた発問や繰り返し発問、整理された板書や児童の考えをゆさぶる場面など、先生の準備がしっかりあるからこそ子どもたちがしっかり考えることができているんだと感じました。今日学んだこと、感じたことを今後の自分自身の指導に活かしていきたいと思います。本日はありがとうございました。

○5年生の授業を見せていただきました。資料が必要かどうか、子どもたちなりに理由を考え交流する姿が見られて良かったです。やっぱり写真の必要性は子どもたちにも考えて欲しい部分ですし、議論しやすい部分でもあるので、子どもたちも意見交流を盛んに行なっていて良かったです。

○3年1組の授業を見させていただきました。「すがたをかえる大豆」の最終段階で、「ソイヨーグルト」と「大豆ミート」は、どのグループに入るか？という発問がありました。それらを、資料をもとに今までの知識を活かして、子どもたちは考えるという活動に入りました。説明文を読み取る学習の後に、自分たちで考えるという活動があり、大変興味深かったです。子どもが、興味がわくような内容でした。

○1年生の授業を見て、言語レベルがとても高いと感じました。自分が思ったことやその理由を言葉にすることができていたり、ノートには1ページにわたって感想が書かれていたり、1年生とは思えない発言や書く活動に驚きました。4月から取り組んでいる成果がこうしてあらわれているのかなと、八尾小学校の取り組みをもっと知りたくなりました。授業を参観させていただき、ありがとうございました！

○単元の流れや授業の流れがとてもきれいで、学校を挙げて学習の計画を立て実践していることがよくわかり勉強になりました。子どもたちも自分の考えを持つ際に自然に教科書の本文に戻ったり、用語や語句の定義から考えたりするなど、今日の授業だけではない、これまでの学習の積み重ねが見え、日々の指導の大切さ、単元だけでなく学年、6年間を通して学習を積み重ねていくことの大切さを改めて考えることができました。

☆取り組みについて

○単元を通して力をつけていく大切さや、系統立てて考え、どの学年でどんな力をつけたいかということを全体で共有して教育活動に臨むことが大切だと感じた。今日の学びを勤務校でも共有できたらと思う。

○ロイロノートや紙を両方使い分ける授業スタイルを今後検討すると思うので今回の発表は良いモデルになったと思います

○正木先生の講演大変興味深く感じました。自分は各教科の中で1番悩んでいるのが国語です。正解というか、どういった授業がもっとも子どもたちの心を動かせるのか日々悩んでいたが、今回の講演がそのヒントになった気がしました。読み手と書き手の立場、発問の三要素たくさんの学びがあったので自校で広めたいと思います。ありがとうございました。

○本日はありがとうございました。どのような目的で授業を進めているのかがわかりやすい説明で良かったです。子どもたちがどのようなことに悩んでいるのかも詳しく教えていただいたので、中学校の立場で参加していた私も授業風景が想像しやすかったです。

○八尾小学校の先生方はじめ、これまでの取り組みが細かく記載されていて大変参考になりました。説明文を研究テーマに選ばれた理由というか、研究が始まる前の子どもたちの課題や、変容などが聞けるとより良かったかなと思います。ただ、今日の時間では難しかったかとも思いますので、あくまでも一つの意見として捉えていただければと思います。八尾小学校の先生方ありがとうございました。

○わからないベースで授業を考えるという発想にとっても驚きました。小学校全体で、考えや目標を共有できているので、あのような授業が行えるのだなと思います。私は英語科なのですが、ぜひ本校の国語科の先生にも知ってほしい内容でした。ありがとうございました。

○1学期に校内授業研、2学期に今回の発表と、学校全体で同じ方向に向かって取り組んでいることが、いいなと思いました。また、国語通信や研究授業のまとめで、教員同士の知識や技能の共有しているところ、自分の学校でも出来る範囲で参考にして取り組んでみたいです。

○学校公開ありがとうございました。校内の取組の中や授業の中に、SE担当の先生が中心となり、学校全体で取り組んでおられる様子がよくわかりました。板書を使つての授業研のまとめは、とてもわかりやすいと思いました。「物語文・説明文の読み方」を校内で共通理解されていることで縦のつながりも把握できます。さらに、高学年児童にも配布されているということでした。学びの積み重ねを教師も児童も共に確認できるので、いいなと思いました。教えていただいたことを帰校後、本校職員に広め、取り入れさせていただこうと思っています。ありがとうございました。

まだまだたくさんのご意見・ご感想がありますので、改めてお知らせします。また、研究発表資料の冊子に余裕がありますので、紙ベースで欲しいという方は永井までお声掛けください。

「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.12号
11月24日

11月22日に門真市で行われた「第48回 大阪府小学校国語科教育研究大会 北河内地区大会」に行ってきました。今大会は授業発表形式ではなく、実践報告形式で単元全体での取組みを各分科会で発表されていました。また、記念講演では、作家・演出家の鴻上尚史さんによる「コミュニケーションのヒント」のお話を聞きました。内容をまとめてみますので、皆さんの授業や生活指導に繋がれば幸いです。

○実践発表 3年《読む・書く》「例の書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう」

『すがたをかえる大豆』 指導助言 前甲南女子大学教授 尾崎 靖二先生

三年目の先生による実践発表でした。尾崎先生の指導の基、単元計画を練り言語活動へとつながる授業展開でした。その中で、ワークシートを使い「表に整理する」「サークルマップに整理する」「PMIチャートで相互評価する」など、シンキングツールを活用しながら読みを深めていっていることが印象的でした。

尾崎先生の指導助言では、説明文の授業の進め方について、教材分析、授業づくりの観点、表現活動にいたるプロセスをわかりやすくご教授いただきました。その中で「筆者の相対化」の話もあり、本校の取組みと重なる内容でもあり、非常に興味深かったです。やはり、現在の説明文授業では、筆者の書いた本文をそのまま受け取るだけでなく、学習者の考えの形成が求められていると改めて感じました。

研究冊子、指導助言資料とともに尾崎先生からのお土産として実践冊子もいただきましたので回覧します。一読していただき、もっと読みたい、永井の解説が欲しいという方はお声掛けください。

○鴻上尚史さんによる記念講演

率直は感想としては「おもしろかった！」です。さすがプロ。作家としての言葉の選び方や演出家としての考えを伝える力に感服しました。内容をまとめます。（多少言葉は違いますが…）

・コミュニケーションのレベル

- ・一人＝独り言
- ・二人組＝会話・対話
- ・三人組以上＝全体への言葉

これがずれるとコミュニケーションのずれが起こる

自分の考えや予定などを自身で確認するときに行うのが独り言。相手に問い、答えを返して双方向に進めていくのが会話。ここにずれが起こるとコミュニケーションは難しくなります。

例 嫁姑問題(あくまで鴻上先生の例です)

パターン A

嫁「姑さん、お味噌汁です。どうぞ。」

姑「あら、嫁さん。今日のお味噌汁は味が濃いわね。私が病気になるようにしているのかしら？」

嫁「いえいえ。そんなことはありませんよ。」

パターン B

嫁「姑さん、お味噌汁です。どうぞ。」

姑「あら、嫁さん。今日のお味噌汁はなんて味が濃いのかしら！これはきっと私を病気にしようとしてるにちがいないわ！そんなに私のことが嫌いなの。まったく…」

パターン A は双方向の会話の形式になっていますが、パターン B は姑さんが独り言になっています。ここにずれが生まれています。そうなった場合、嫁さんのほうはもうシャッターが下りてしまいます。これが、二人組での会話では往々にして起こってしまうそうです。特に一方が感情的になった場合に起こりやすいそうです。学校現場でも、例えば先生の指導場面ではどうでしょうか、というお話でした。

・声を作るということ

声を作る5つの要素。それは「大きさ、高さ、速さ、間、声色」だそうです。これを意識的に使い分けることで、相手への伝わり方が変化するそうです。（俳優さんへの指導に行っているそうです）また、演技において「その状況での心情を想像すること」を行う際に、自分の経験の中にはない場合がある。その際に、その状況での発声を先に考え行うことで、心情に気づくということがあるそうです。これは、国語科の授業における音読指導につながっていくことですね。思考→表現というアプローチと表現→思考というアプローチの違いです。この表現→思考というアプローチの素晴らしい音読実践があります。鴻上さんは「わからない場合はまず、やってみることが大切」とおっしゃっていました。

・シンパシー(同感)とエンパシー (共感)

シンパシー (sympathy) は他人と感情を共有することをいい、エンパシーは、他人と自分を同一視することなく、他人の心情をくむことをさす。 出典：[デジタル大辞泉（小学館）](#)

これまでの日本はシンパシーでの指導が多く、それで通じていたそうですが、多様化した現代に求められるのはエンパシーの力だそうです。例えば、「自分がされて嫌なことは人にしてはいけません」は通用しなくなっています。ですので、「自分はいいと思うことでも、相手は嫌がるかもしれない」という価値観を育てていく必要があるそうです。さらにいうと、共感・理解＝同感とされてしまう風潮をかえていかなければなりません。

「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.13号
12月13日

先日、国語授業づくり担当研修があり、これまでの研究の成果や課題を交流しました。また、今年度の全国学力・学習状況調査、大阪府すくすくウォッチにおける大阪府の課題を共有しました。研修の中で、大阪府教育庁市町村教育室小中学校課学力向上グループ指導主事より八尾小学校の取組みが紹介されましたので皆さんに報告します。

○他校の取組み

・藤井寺市立藤井寺南小学校 「自主学習ノート」

先日研究発表を見学した際の資料を回覧しました、藤井寺南小学校の取組みです。他教科とのつながり、書く力の育成のため自主学習ノートに力を入れていました。自主学習ノートでは「**学習型**」と「**探求型**」に分けてそれぞれお手本を提示しながら子どもたちが主体的に取り組めるような手立てを用いていました。本校の実態として自主学習への取り組みの低下が見られましたので、学力向上部と連携して、皆さんに提案していきたいと思います。

○大阪府の課題

4月に共有した大阪府の課題として「言葉の力」「情報活用能力」が挙げられていました。今年度の結果では、引き続きこの二つの課題と共に、すくすくウォッチで見られた課題が共有されました。「すくすくウォッチ問題10」

次の例にならない、【もとの文】の二つの文を、意味が変わらないように一つの文に書き直しましょう。

例 【もとの文】 カーテンを開けた。すると、部屋が明るくなった。
【書き直した文】 カーテンを開けると、部屋が明るくなった。
問題 【もとの文】 昨日読んだ本がおもしろかった。だから、友だちにすすめた。
【書き直した文】 （ ）

接続詞を考え、二文を一文に書き直す問題です。本校児童に大きな課題は見られていませんが、「要約」に関わってくる問題ですのでとりあげてみます。

「一文要約の実践例」（要約は4年生で学習する内容ですが、どの学年でも取り組めます）
要約は説明文を教材にして学習する内容ですが、様々なところで活用できます。

☆学習の型 「○○が○○して○○になった話」

国語の物語文の初発に、社会でのまとめに、道徳や生活の学習課題でも用いれる。低学年から一文

要約に慣れていくと、話をまとめる力の育成になり、伝わりやすい文章が書けるようになってきます。学習の一つの手立てとして取り入れてみてください。（より詳しくは永井まで）

○本校の取組みについて

研修の中で、11月1日の研究発表で5年生が取り組んだ「固有種が教えてくれること」の授業が、大阪府の課題である「言葉の力」「情報活用能力」の育成に向け、「複数の情報の中から考えを形成する」ことの実践事例として取り上げられました。

次	時	主な学習活動
1	2	・資料を用いた意見文を書くことを知り、資料の載っていない練習教材を読み、どのような資料があればいいかを考える。 ・考えを交流する。
2	7	・「固有種が教えてくれること」を読み、文章構成を捉える。 ・それぞれの文章のまとまりに合う資料（ツール）を個人で考える。 ・それぞれの文章のまとまりに合う資料（ツール）をグループで考える。 ・自分が効果的だと考える資料（ツール）について全体で交流する。 ・本文で提示されている資料と、本文の対応箇所をおさえ、資料活用の効果について考える。 ・筆者の資料と自分達のを比べ、検討する。【本時】 ・学習したことをレポートにまとめる。
3	4	・自分の考えにあったグラフや表を選び、順序を考えて意見文を書く。 ・意見文を交流する。

「読み手の立場」と「書き手の立場」を往還しながら、筆者の相対化を目ざした単元構成になっています。大阪府教育庁市町村教育室小中学校課学力向上グループ指導主事からは「**大阪府のすべての学校でこのような授業が行われることを望みます**」という言葉がありました。本校の取組みが八尾小学校の子どもたちだけでなく、大阪府の子どもたちの学力向上につながり、大阪府の授業モデルとなっている実感がわいてきます。

5年生の取組みができるのは今年度の学年団の頑張りと共に、前年度までの八尾小学校の取組みの積み重ねです。また、今年度の各学年の取組みが、翌年翌々年につながり、八尾小学校の基盤となっていきます。学習は系統的に行われています。先生方の日々の頑張りが、子どもたちの学力向上、人間力向上につながっています。二学期も残りわずかですが、体調に気を付けて頑張っていきましょう。三学期説明文教材

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
「どうぶつの赤ちゃん」	「おにごっこ」	「ありの行列」	「ウナギのなぞを追って」	「想像力のスイッチを入れよう」	「メディアと人間社会」 「大切な人と深くつながるために」

